

議案第57号

令和5年度公立高等学校育成型選抜における
指定競技に関する移行措置について

徳島県教育委員会教育創生課

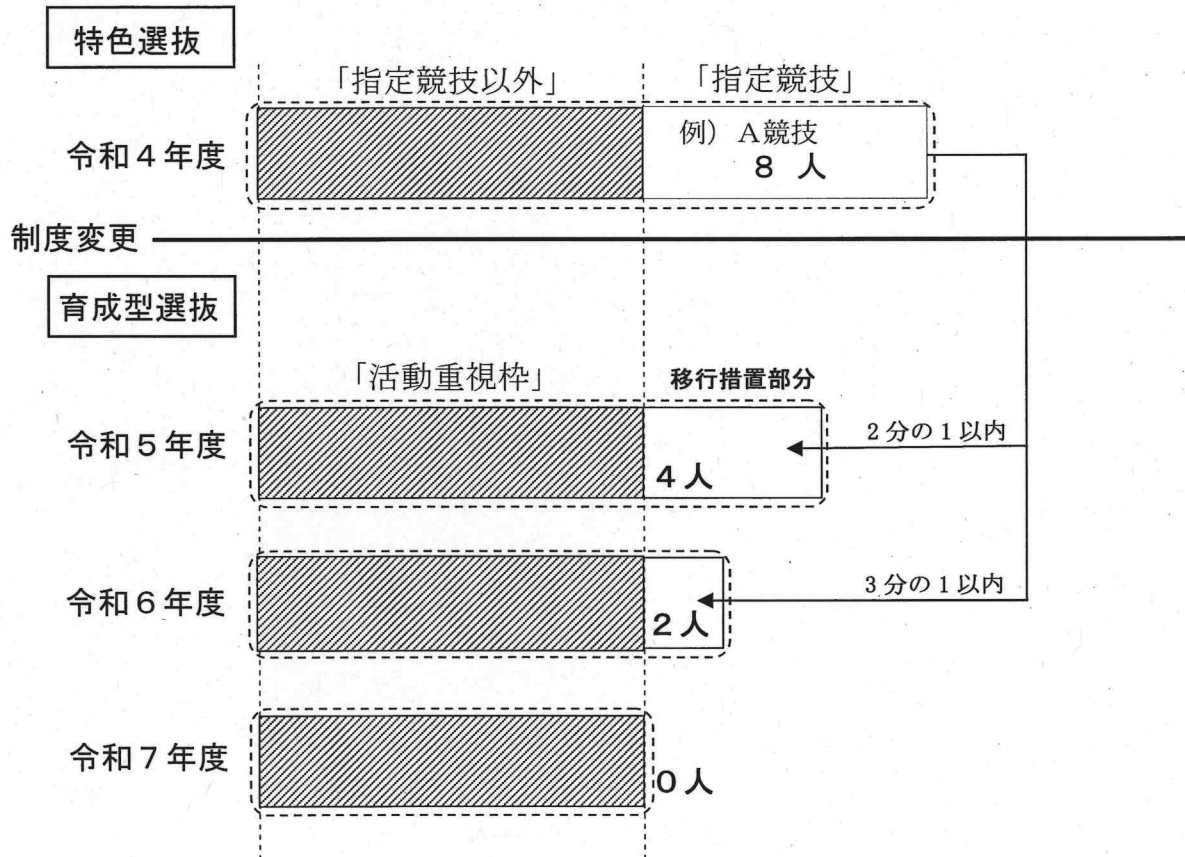
令和5年度公立高等学校育成型選抜における 指定競技に関する移行措置について

令和4年度までの「NEO徳島トップスポーツ校強化事業」では指定を受けていたが、令和5年度からの「とくしま競技力向上指定校事業」において指定外となった競技については、移行措置として、「活動重視枠」の募集人数の上限を超えての募集を可能とする。2年間の時限措置とする。

(移行措置)

- ・ 令和5年度育成型選抜では、令和4年度該当競技募集人数の2分の1以内
- ・ 令和6年度育成型選抜では、令和4年度該当競技募集人数の3分の1以内

例) ある高校で、令和4年度まで「指定」であったA競技が、令和5年度から指定外となった場合



※ 令和5年度、令和6年度育成型選抜における「移行措置部分」の募集人数は、令和4年度まで「指定」されていた該当競技でのみ募集することができる。

令和5年度入学者選抜から 徳島県公立高等学校の 入学者選抜が変わります

現在の中学2年生から対象です

新しい入学者選抜のポイント！

- これまでの特色選抜に替わり、育成型選抜（活動重視枠、^{かつどう}実績重視枠）を新たに始めます。
- 育成型選抜では、運動分野のほか、文化分野や各高校のスクール・ポリシーに関連した分野で募集します。
- 一般選抜の学力検査では、各高校が教科の傾斜配点を導入する場合があります。

令和5年度公立高等学校入学者選抜の概要

令和5年2月上旬

育成型選抜

運動分野、文化分野、
スクール・ポリシーに関連した分野
で募集します

連携型選抜(※1)

現在の選抜と変更ありません

(※1) 那賀高校または阿波西高校と
連携する中学校を卒業する生徒
を対象とした選抜

令和5年3月上旬～中旬

一般選抜(※2)

学力検査で傾斜配点を
導入する高校があります

(※2) 選抜資料は、調査書と
学力検査・面接等

令和5年3月下旬

第2次募集選抜
現在の選抜と変更ありません

令和3年12月
徳島県教育委員会
徳島市教育委員会

新しい入学者選抜について

① 育成型選抜では、

「^{かつ どう}活動重視枠」と「^{じっ せき}実績重視枠」の2つの枠で募集

「活動重視枠」は、学習や部活動など、中学校での活動全般を重視する選抜
運動分野と文化・ポリシー分野(※3)で募集

「実績重視枠」は、競技力や大会成績など、中学校での部活動等の実績を重視する選抜
運動部指定競技と文化部指定分野で募集(※4)

(※3) 文化部活動やスクール・ポリシーに関連した分野

(※4) 実績重視枠には、鳴門渦潮高校体育科と名西高校芸術科を含む

育 成 型 選 抜

^{かつ どう}活動重視枠

「調査書(※5)」と「学力検査」を重視します

「活動記録(※6)」が必要です

「実技等」と「面接」のうち少なくとも一つを実施します

検
査
内
容

^{じっ せき}実績重視枠

「活動記録(※6)」と「実技等」を重視します

「学力検査」があります

「調査書(※5)」が必要です

「面接」を実施する場合があります

(※5) 教科等の成績などを記録したもので、中学校が作成

(※6) 大会等の成績などを記録したもので、受験生が作成

各高校が競技・種目及び分野ごとに決定します
(団体競技はレギュラー人数未満となります)

募
集
人
数

県教育委員会が競技・種目及び分野ごとに決定します
(団体競技はレギュラー人数が基本となります)

○「活動重視枠」と「実績重視枠」では、個別面談(※7)の開始時期が異なります

(※7) 出願前に高校が特定の生徒に対して、部活動等の特色を説明する面談

「スクール・ポリシー」とは、各高校がそれぞれの教育の特色や方針を定めたものです。

各高校のスクール・ポリシーは、次のQRコードから確認できます。



かつどう
【活動重視枠について】

活動重視枠では、各高校が、より特色を出して活性化したい運動分野、文化分野やスクール・ポリシーに関連した分野で募集します。

運動分野、文化分野については、各高校の部活動等のなかから、募集する競技・種目や分野が定められます。

スクール・ポリシーに関連した分野については、学科に関連した理数、外国語、農業、工業、商業や環境、地域貢献などが考えられます。

じっせき
【実績重視枠について】

実績重視枠では、運動部指定競技に加え、新たに、文化部指定分野でも募集します。

- 各高校は、「活動重視枠」と「実績重視枠」ともに、それぞれ募集する競技・種目や分野ごとに、出願要件(出願に必要な条件)をあらかじめ示すことにしています。



② 一般選抜の学力検査では、 各高校のスクール・ポリシーに基づいた傾斜配点を導入

一般選抜の学力検査において、各高校・学科の特色をより反映させることができるように、各高校は、スクール・ポリシーに基づいた傾斜配点を採用することが可能となりました。

傾斜配点を採用することで、普通科や工業科など学科ごとに特定の教科の配点を高めることができるようになります。

各教科 100 点、5 教科合計 500 点が基本ですが、傾斜配点を採用した教科の加点部分の合計は 100 点まで、5 教科合計は 600 点まで可能としています。

- 傾斜配点を導入する高校と配点は、令和 4 年 2 月下旬頃に公表します。



令和 5 年度公立高等学校入学者選抜の基本的な方針の
詳しい内容は、次の QR コードから確認できます。



Q1 育成型選抜の「活動重視枠」と「実績重視枠」で、重視する検査内容が違いますが、どのような違いがありますか。

A1 「活動重視枠」と「実績重視枠」では、それぞれの枠で重視する検査内容の配点が、他の検査内容に比べて高くなっています。

「活動重視枠」では、中学校が作成し出願時に提出する「調査書」と、検査日に実施する「学力検査」の配点が高くなっています。

一方、「実績重視枠」では、部活動等の実績等について受検生が作成し出願時に提出する「活動記録」と、検査日に実施する「実技等」の配点が高くなっています。

Q2 育成型選抜の「活動重視枠」と「実績重視枠」の学力検査に違いはありますか。

A2 「活動重視枠」と「実績重視枠」の学力検査問題は共通です。中学校で学ぶ基本的な内容に加え、思考力を用いて解く問題も出題する予定です。

Q3 育成型選抜の「活動重視枠」における文化・ポリシー分野での実技等とはどのようなものですか。

A3 文化・ポリシー分野での実技等の内容については、各高校が定めますが、実技検査のほか、意見発表や口頭試問(※8)などが考えられます。

(※8)口頭試問とは、教科や学科に関連する質問に対し、受検生が口頭での回答を行ったり、ホワイトボード等を用いて説明をしたりする方式の検査

Q4 育成型選抜に出願するには、運動分野や文化分野で、中学校の部活動で活動する必要がありますか。

A4 各高校が示す出願要件を満たしていれば、中学校の部活動以外の活動でも出願は可能です。

Q5 育成型選抜における、各高校の募集分野・種目、募集人数及び出願要件については、いつ頃、公表されますか。

A5 令和4年2月下旬頃に公表する予定です。ただし、「実績重視枠」の募集分野・種目、募集人数については、令和3年12月に公表します。

徳島県公立高等学校入学者選抜の情報は、「徳島県入試情報サイト」に掲載しています。

「徳島県入試情報サイト」のURL <https://nyuushi.tokushima-ec.ed.jp>



(問合せ先) 徳島県教育委員会 教育創生課 新未来教育担当
〒770-8570 徳島市万代町丁目1番地
電話番号 (088) 621-3120
E-mail kyouikusouseika@pref.tokushima.jp